

座長集約

川崎幸病院 中 孝文

企画 2 として「肩関節の MRI～整形外科医は何を見たいか？それをどう撮影するか？肩関節 MRI では何が何処までみえているのか？」と題し、八重洲クリニックの佐志 隆士先生にご講演をいただきました。皆様もご存知のように、佐志先生は肩関節 MRI のスペシャリストとして大変ご高名な方ですので非常に楽しみにしておりました。ちなみに今回は約 130 名とたくさんの方々にご参加いただきました。ご参加いただいた方々の中には佐志先生のご講演を目的に来られた方も少なくなかったのではないのでしょうか？

「整形外科医は何を見たいのか？」ということで疼痛肩、不安定肩、投球障害肩、を例に挙げてご説明いただきました。疼痛肩は主に腱板損傷、不安定肩は Bankart 損傷や Hill Sachs 損傷、投球障害肩は SLAP 損傷があるのかないか、そしてあるとしたらその程度を見たいということでした。そしてそれらを観察するには脂肪抑制法を併用した T2 強調画像が有用であり、その際の TE を通常より短い 60ms 程度とすることで SNR を稼ぎ、背景が真っ黒になりすぎないようにすることで病変の診断能が向上するそうです。脂肪抑制法を併用した T2 強調画像が有用であるのは、腱板は滑膜で裏打ちされており、滑膜が損傷すると滑膜炎になり、浸出液がでてくるため脂肪抑制法併用の T2 強調画像で滲出液がコントラスト良く好信号として描出されるからです。その他にもロカイザーの重要性、適切なポジショニングなど数多くのことを教えていただきました。改めて肩関節 MRI の奥の深さを感じた人も大勢いらっしまったのではないのでしょうか？私自身、肩関節 MRI をある程度理解しているつもりだったのですが、先生のご講演を拝聴して恥ずかしくなる思いでした。そして肩関節 MRI の熱が冷めないうちに、さっそく佐志先生がご執筆された「肩関節の MRI～改定第二版～」を買いに行こうと思います。

最後にはなりますが、佐志 隆士先生非常にためになり明日からにでもすぐに役立つご講演をしていただき、誠にありがとうございました。